

蔵王山の火山活動解説資料（平成29年12月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。
蔵王山では、2013年から2015年にかけて火山活動の高まりがみられました。その後も火山性地震や火山性微動が時々発生していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

遠刈田温泉及び上山金谷に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

2013年以降、御釜付近の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震が増加し、やや多い状態で経過しています。

・地殻変動（図 2-④、図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

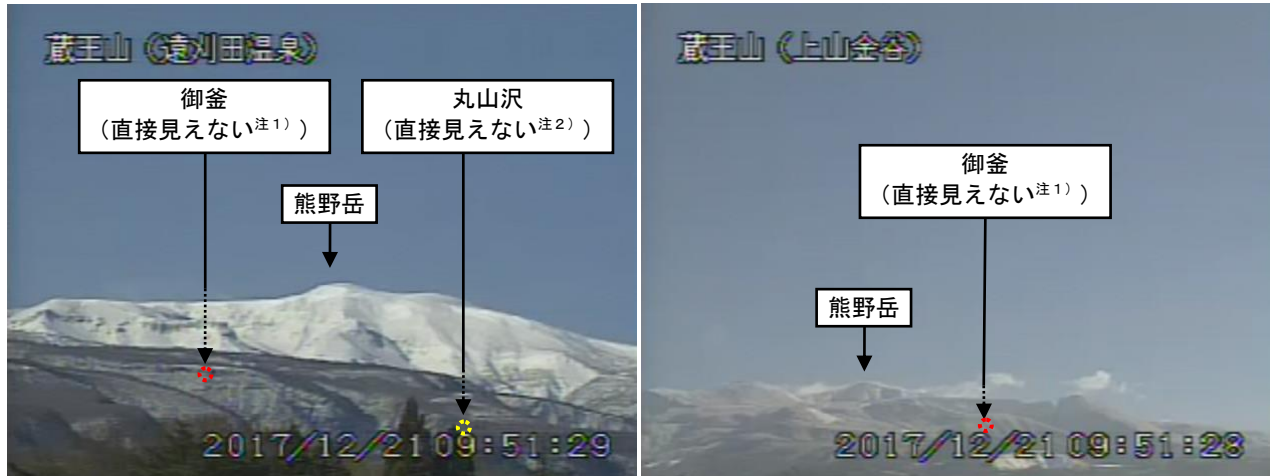


図 1 蔵王山 山頂部の状況

- ・左図：遠刈田温泉（山頂の東約 13km）に設置している監視カメラの映像（12 月 21 日）です。
- ・右図：上山金谷（山頂の西約 13km）に設置している監視カメラの映像（12 月 21 日）です。

注 1）御釜から噴気が出た場合、遠刈田温泉及び上山金谷では高さ 200m 以上のときに観測されます。
点線赤丸が御釜の位置を示します。

注 2）丸山沢からの噴気は、高さ 100m 以上のときに遠刈田温泉監視カメラで観測されます。
点線黄丸が丸山沢の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年1月分）は平成30年2月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

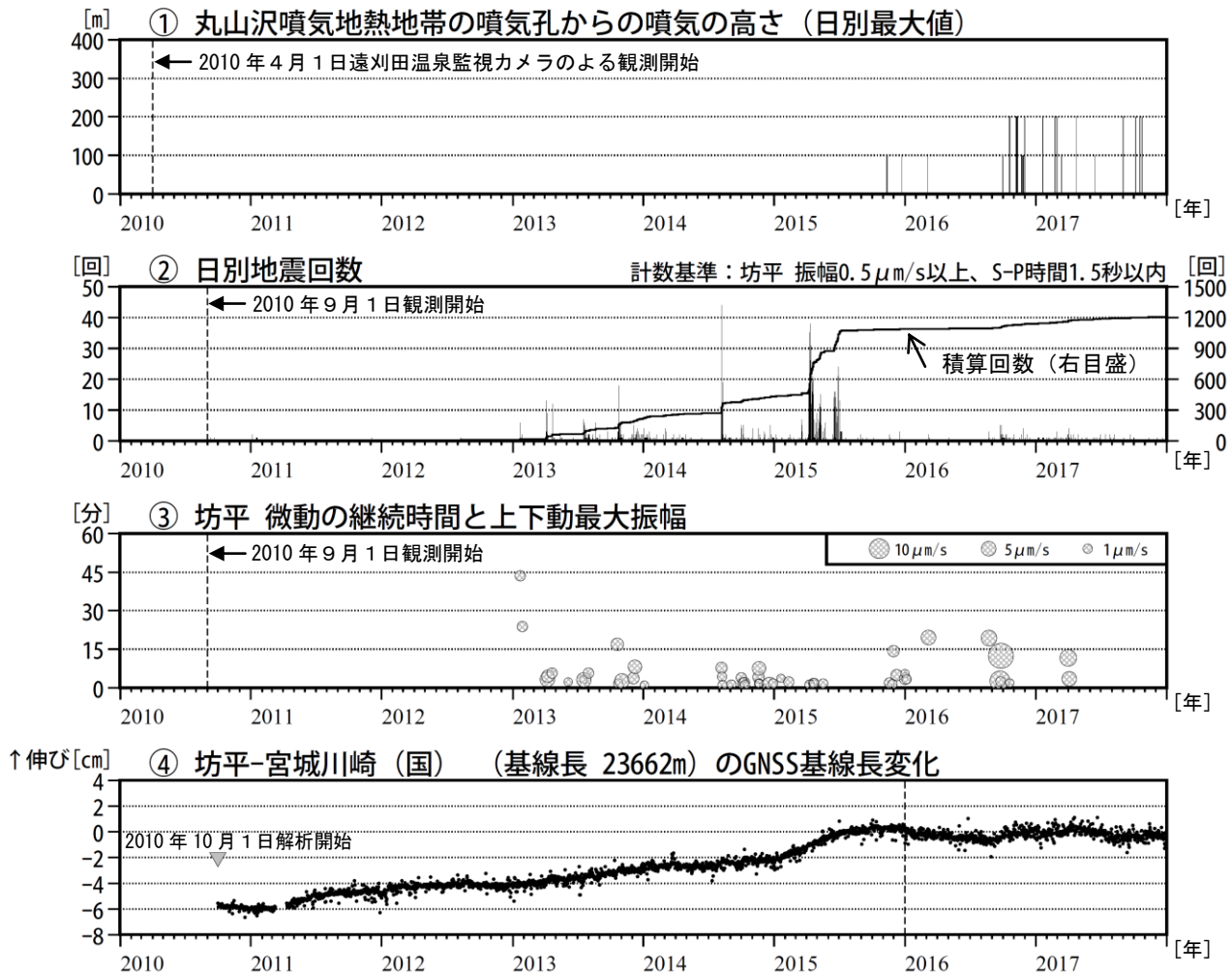


図2 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2017年12月）

- ・①遠刈田温泉（山頂の東約13km）に設置されている監視カメラによる観測です。
 - ・④は図6のGNSS¹⁾基線①に対応しています。
 - ・④2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
- 1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

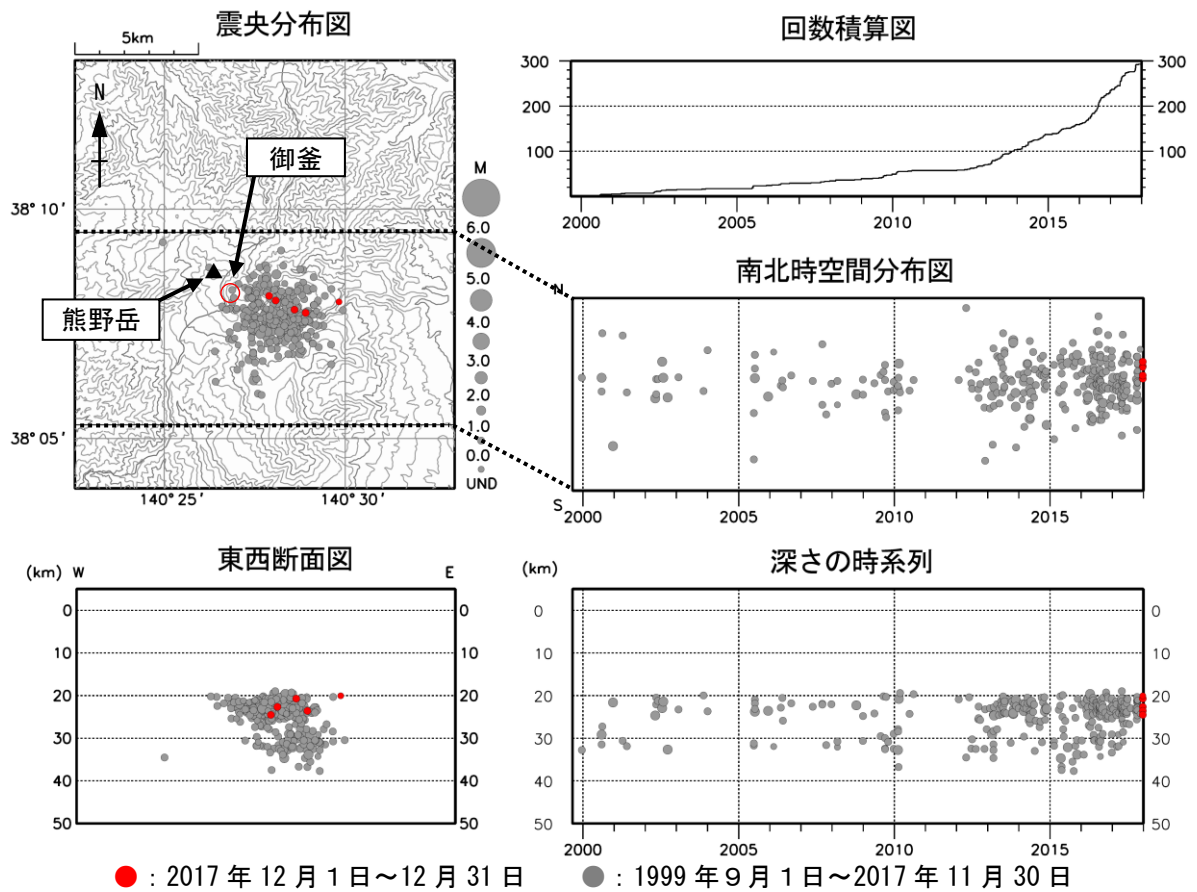


図3 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999 年 9 月～2017 年 12 月）

・ 2013 年以降、深部低周波地震（特に深さ 20～30km 付近の地震）が増加し、やや多い状態で経過しています。

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

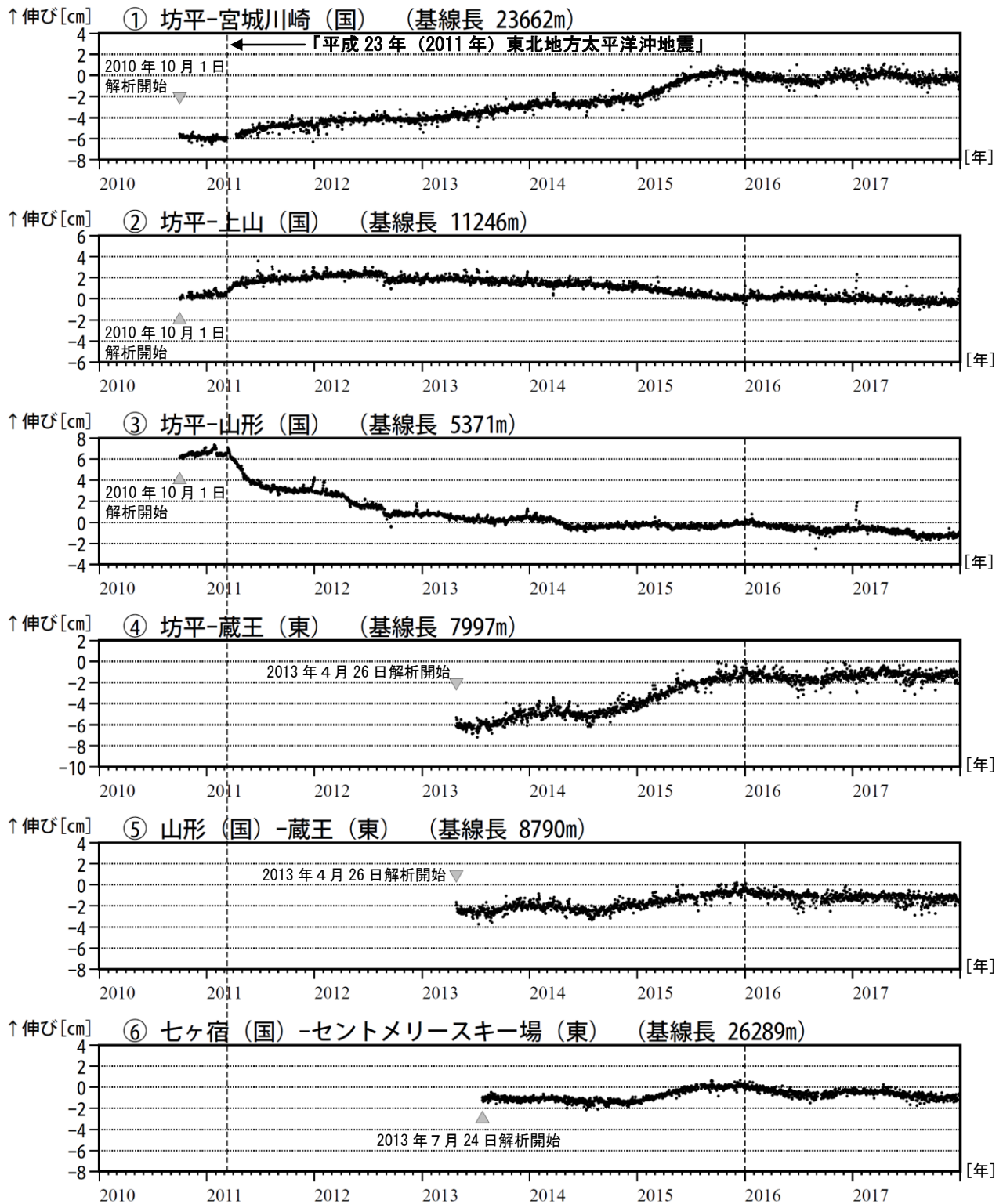


図 4 蔵王山 GNSS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2017 年 12 月)

- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑥は図 6 の GNSS 基線①～⑥に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ・2016 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

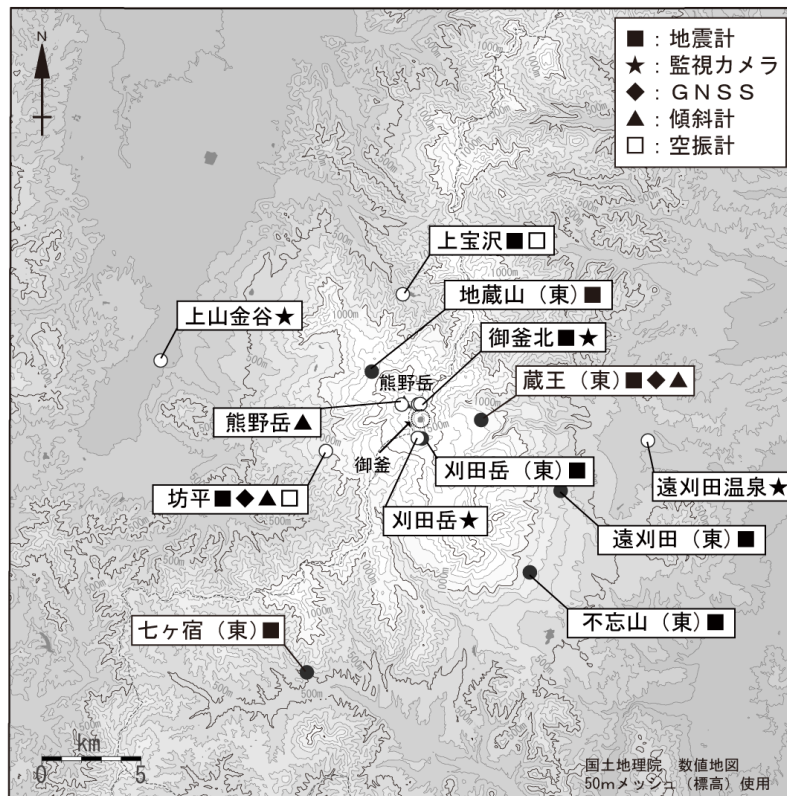


図5 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東）：東北大学

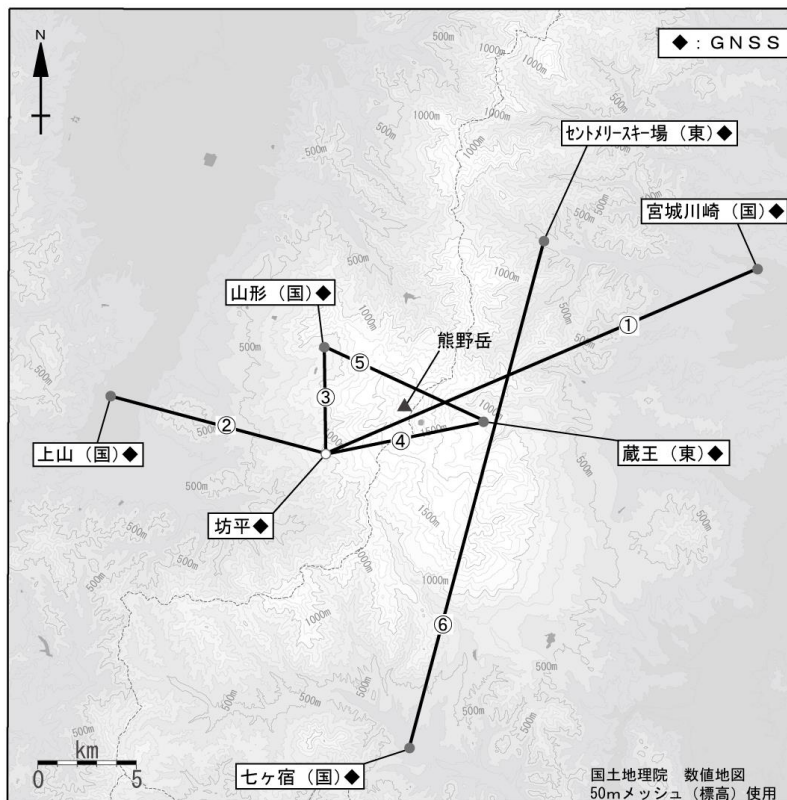


図6 蔵王山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院 （東）：東北大学